

| | |
|--------|---|
| 学校教育目標 | 「ともに伸びる子」かしこく・ゆたかに・たくましく |
| 目指す学校像 | 安全・安心で潤いのある学校 生き生きと学ぶ活力のある学校 豊かな心と身体を育てる人間関係さわやかな学校 家庭・地域とともにある信頼される学校 |

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 「自律して学ぶ力」を育む学習指導の充実 2 「自立してたくましく生きるための心と身体」の育成を図る教育の推進 3 子どもの未来・地域の未来をつくるコミュニティスクールの推進 4 安全・安心で豊かな学びを保障する教育環境の整備・充実 5 生き生きと学ぶ活力のある持続可能な教職員組織の構築 |
|------|---|

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校運営協議会による評価 | |
|--------|---|---|--|---|-----------|-----|--------------|---------------------|
| 年度目標 | | | | 年度評価 | | | 実施日 令和 年 月 日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | (現状) ・授業中学習に関心をもって前向きに取り組む児童が多い。また、タブレットの活用に対する関心は高く、進んで取り組むことができる。 ・学習指導におけるICTの活用については、教職員研修等を行うことを通じて取組を進めている。 (課題) ・基本的生活習慣・学習習慣の定着に向けて取組を進める必要がある。 ・指導の個別化、ICTの効果的な活用を含めた授業等学習指導の改善について、研究を進める必要がある。 | 「自律して学ぶ力」を育む学習指導の充実 基礎学力向上を目指す学習指導の充実 | ・授業において、自分で考える時間、友達の意見を聞く時間、自分たちで考えをまとめる時間を確保し、児童が学習のつながりになり気づき、意識できる授業展開、掲示の工夫に取り組む。 ・ドリルパーク等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟及び各単元で練習問題に取り組む時間を確保するための授業展開の工夫に取り組む。 ・家庭、地域と連携した基本的生活習慣、学習習慣の定着に向けた取組を実施する。 | ・学校評価(児童)「自分で考えて、進んで勉強している」「授業の課題や主題に最後まで取り組んでいる」について肯定的な回答の割合が前年度以上(88%・91%)となったか。 ・市学習状況調査(国語・算数)の正答率数値(「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」)を前年度より向上(66.0 52.7 55.7 55.0)させる。 ・学期単元まとめテスト(国語・算数)の正答率数値(「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」)を1学期より向上させる。 | | | | |
| 2 | (現状) ・素直で優しい児童が多い。人への関心が高く、他者を受け入れる姿勢がある。 ・係や委員会活動、学校行事などに意欲的に取り組んでいる児童が多い。 (課題) ・学校評価(児童)「友達や先生と一緒に勉強をしたり活動したりすることは楽しい。」と回答した児童の割合が87%である。 ・全学年単学年級のため他者との関りが固定化している。 ・学校評価(保護者)「教職員は子どもの悩みやトラブルなどについて迅速かつ丁寧で親切に対応している」について肯定的な回答の割合が91%である。 ・児童一人ひとりに応じた指導や支援について、全教職員で組織的な対応が求められている。 | 児童の自己肯定感・自己有用感を高める教育活動の実施 校内教育相談、支援体制の構築 | ・授業等における異学年による学び合いの機会を設ける。 ・他者(児童同士、他校の児童生徒、教職員、保護者・地域の方々)との交流の場・機会を設ける。 ・学級活動、児童会活動、学校行事等において、児童が主体となって活動する機会を設ける。 ・職員集会や生徒指導・教育相談委員会に必要な児童の状況や情報を丁寧に交換し合い、アプローチの共通理解を行う。またSC・SSW・関係機関のアセスメントを参考に丁寧な教育相談を実施する。 | ・学校評価(児童)「友達や先生と一緒に勉強をしたり活動したりすることは楽しい。」について肯定的な回答の割合が前年度以上(87%)となったか。 ・学校評価(児童)「先生は、がんばったことをほめてくれる」について肯定的な回答の割合が前年度以上(91%)となったか。 ・学校評価(保護者)「教職員は子どもの悩みやトラブルなどについて迅速かつ丁寧で親切に対応している」について肯定的な回答の割合が前年度以上(88%)となったか。 | | | | |
| 3 | (現状) ・保護者ボランティアを募集するシステムが整い、活動が進められている。 ・学校運営協議会(小中合同あいさつ運動等)、SSN(1年生下校時見守り活動等)、社会福祉協議会長期休業中の宿題教室等)、青少年育成会(地域パトロール等)、を実施することができている。 (課題) ・音楽・図工・家庭科・体育等、専門家から学ぶ機会や地域の人などが、授業に協力できるとよい。 ・コミュニティスクールとしての取組について、さらなる周知ができるとよい。 | 保護者・地域ボランティアとの連携・協働 地域・関係機関との連携・協働 | ・保護者・地域ボランティアの活動について効果を上げる方法や内容を工夫する。 ・地域人材の整備や見直し、新たな確保等を進める。 ・桜山中学校や近隣の教育機関との連携を図るため、年間を通じた取組を計画的に実施する。 | ・ボランティア活動の機会や参加人数が前年度と同等以上となったか。 ・地域の人材確保を進めることができたか。 ・学校評価(教職員)「学校間の接続に関する工夫がなされているか」について肯定的な回答の割合が前年度以上(86%)となったか。 | | | | |
| 4 | (現状) ・個別最適な学習の充実(初動)誠実(寄り添い)アフターケア(支援)の協力体制としている。 ・学校評価(保護者)「学校は事故防止への配慮をしている」について肯定的な回答の割合が90%である。 (課題) ・更なる学びの多様化を実現するための教職員のICT活用能力や指導支援力の向上 ・校内の安全や事故防止について、設備や体制を見直し、再構築する必要がある。 | 個別最適な学習と学習環境作りの整備 児童の安全・安心で豊かな学びを保障する教育環境の整備 | ・教育心理・教育相談や特別支援教育の考え方や手法を取り入れた指導支援のアプローチを行う。 ・ICT活用に係るスキルアップの研修を学校課題研修で定期的に行う。 ・校内設備や体制を見直し、再構築するとともに適切に実施する。 | ・学校評価(児童)「先生は勉強がしやすいように授業や宿題を工夫している」について肯定的な回答の割合が前年度以上(91%)となったか。 ・学校評価(保護者)「学校は事故防止への配慮をしている」について肯定的な回答の割合が前年度以上(90%)となったか。 | | | | |
| 5 | (現状) ・学校全体での迅速(初動)誠実(寄り添い)アフターケア(支援)の協力体制としている。 ・「授業づくりチェックシート」等を活用した教職員同士の相互参観での授業改善を行っている。 (課題) ・教職員数が少なく、一人ひとりの教職員が担う業務量が多い。業務改善を継続していく必要がある。 ・新たな教育課題への対応については、継続して研修を実施していく必要がある。 | 生き生きと学ぶ活力のある教職員集団の育成 心身ともに元気で、持続可能な教職員組織を構築する業務改善の実施 | ・学年ブロックや校務分掌のバディ体制をもとにして、一人で抱え込まない環境作りを行う。 ・教職員一人ひとりのキャリア段階や役割(担当分掌)に応じた研修を計画的に実施する。 ・働きやすい職場環境を構築するため、業務改善委員会を中心に、業務改善の提案、実施を行う。 | ・学校評価(教職員)「明確な運営・責任体制が整備されているか」についてA評価の割合が昨年同等以上(86%)となったか。 ・教職員の人事評価シート「研修」への取組について、全教職員が8割以上の達成状況となったか。 ・学校評価(教職員)「積極的な業務改善や時間をかけずに分かりやすい授業等の実施に努めているか」について肯定的な回答の割合が前年度以上(93%)となったか。 | | | | |